

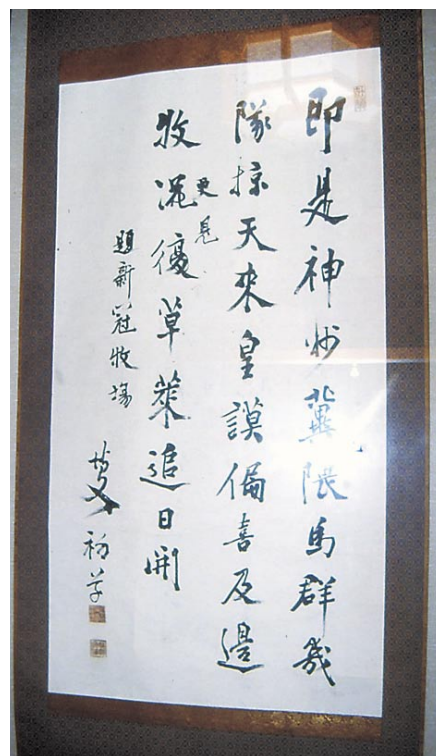


●お問い合わせ先
 静内町経済部商工労働観光課
 Tel. 0146-43-2111 (内線176・177)
 静内観光テレホンサービス
 Tel. 0146-42-4000
 静内町観光情報センター「ぼっぼ」
 Tel. 0146-42-1000

昭和20年頃の二十間道路。この荒れた土の道に春、桜が咲き並ぶ姿は今とは違う美しさがあったに違いない。桜の木々はまだ低いことが分かる。



龍雲閣と伊藤博文の絶筆といわれる書（下）



地元の人々が守り育ててきた「道」

北海道では5月の黄金週間の頃に桜の季節を迎える。二十間道路の桜並木は1964（昭和39）年に第1回しずな桜祭りが行われて以来、桜の季節には毎年、20万人以上の人たちが集まるようになった。ジンギスカンやバーベキュー、阿波踊りなどのイベントが咲き誇る壮大な桜並木の下で行われ、思い思いに長い冬を終えて訪れた春を楽しむ。1986（昭和61）年には「日本の道百選」（建設省）、1987（昭和62）年には「北海道二十景北の彩時記」（北海道郵政局）、1988（昭和63）年には「北海道まちづくり100選」（同実行委員会）、1990（平成2）年には日本さくら会の会によるさくら名所百選の一つにも選ばれた。

また、1993（平成5）年には「北海道まちづくり100選ふるさとの魅力の発掘部門」（同実行委員会）、1994（平成6）年には読売新聞社の「新・日本街路樹百選」にも選ばれている。一方、地元のボランティアや高校生の協力により、沿道にコスモスを植える取り組みも行われている。春には桜を、秋には秋桜を愛でようという粋な取り組みだ。

1903（明治36）年に行啓道路として開かれてから100年。その間、地元の方々がこの桜並木を愛し、成長を願って手入れを続け、守り育ててきたことにもう一度、感謝の意を表したい。

日本の桜並木の大部分はソメイヨシノである。エゾヤマザクラは山桜系だから、花盛りに葉も出て開いてしまうのと、花が紅色がかっているから、どうしても少し地味になる。それはそれで風情があるのだが、明るいソメイヨシノを見慣れた人には派手やかさが足りない、という人も少なくない。山桜系の並木というのはよそにはないから、その点でもユニークな桜並木といえることができる。